

85歳以上の方が楽しめる映像を作る。 日本初の試みが始まった。

「人生の晩年を少しでも楽しく過ごしてもらいたい」。そんな思いから日本メディアケア協会は高齢者福祉施設の利用者向けに映像ソフトの制作を始めた。各所に工夫を凝らした85歳以上向けの映像ソフトが、今日本全国の施設に無料配布され、好評を博している。

高齢者は普通の映像ソフトでは受け入れない。

現在、100万人近い高齢者が養護施設などに入居し、通所利用者を含めると500万人以上が高齢者福祉施設を利用している。

こうした施設では、利用者を対象としたレクリエーションはメイン業務といってもいい。楽しんで、生きがいをもってもらうほかに、「気分転換」「心身の残存機能の維持」

「昼夜逆転の防止」などの効果がある。レクリエーションの内容はさまざまあるが、身体を動かさない方が対象となると、映像の鑑賞は中心的なものになる。

日本メディアケア協会 代表理事の川崎陽一さんは養護施設の現状について次のように語る。

「施設の方が時代劇ビデオなどを借りてきて上映しています。しかし、85歳以上になりますと、トイレの問題もありますし長時間見ていることができません。耳が遠くて音声も聞き取れないとか、ストーリーが複雑なものは忘れてしまう方もおられます」

しかし、高齢者向けの映像などどこにもない。そこで同協会はAJOSCの助成を受け、高齢者向けに編集した専用の映像ソフトを施設へ提供をする活動を始めた。

その編集方針として、まずメインターゲットを85歳の女性に置いた。映像の時間は15分～20分。情報が音声に



高齢者福祉施設でビデオ上映会をしている様子



介護スタッフに対し講習会を行っている様子

頼るものは避け、大きな字幕をつける。ストーリーよりも瞬間毎に美しいものや、笑いが起きるような作品を選んだ。

もう1つの要素が、介護をする人からも支持されるものである。

「実際に見る人ではなく、介護者に決定権がある世界なのです。そこを意識しないと、せっかく作っても使ってもらえません」と川崎さんは説明する。

アニメにラジオ番組、意外なものも活用された。

いくつかの候補が浮かぶ中、コストをかけずに映像を準備できるものが優先して作られた。初年度の作品は四本。「マスターキートンの映画」「旅紀行」「トム&ジェリー」「NHKラジオ深夜便」である。

「マスターキートンの映画」は1時間の原作を20分にまとめた。無声映画なのでセリフは元よりないが、字幕は元の倍くらい付けた。「旅紀行」はNHKの映像を借りることができた。千葉県の高齢者施設を紹介した内容で、画面はとても美しい。

「トム&ジェリー」も台詞はなく、主人公2人の掛け合いだけで見せる内容である。

「高齢者にアニメというと意外かもしれませんが、動きははっきりしていますし、高齢者の皆さんが初めてテレビを見た頃のものですから、懐かしさも手伝ってたいへん好評です」

最後の「NHKラジオ深夜便」は映像がないため、音声のみを使いゲストの写真や字幕を入れて内容を把握しやすいようにしている。

担当者より



人目のつかないところに目を向け続けて欲しいと願っています。

日本メディアケア協会
代表理事
川崎陽一さん

全国の施設と利用者に代わりまして、御礼申し上げます。我々もそうですが、人目のつかないところで困っている方々を、支援している志の高い人たちもたくさんいます。我々にしてくださったようにAJOSCにはこれからもそうしたところに目を向けて活動していただきたいと思います。

「夜中にイヤホンでラジオを聞いている入居者の方は多いです。特にNHKのラジオ深夜便は人気があります。普段は夜中に1人で聞いているものを、昼間みんなで聞いたら、新しい発見があり、会話はずむのではないかと考えました」と川崎さんは語る。

できた映像ソフトは1000枚ほどのDVDに焼かれ、全国の施設に無料配布された。今後も要請があれば提供するそうだ。反響はすぐにあり、施設からは感謝の言葉が届いた。これまで施設向けの映像などなかったからである。続編を求める声も多く集まった。

「介護職の軸は20代女性と育児の終わった40、50代の女性です。高齢者がどんなものを好むかわからないので、悩んでいます」

このため同協会では、各施設での講習会も行った。高齢者の好みや視聴能力、また今回の映像ソフトの必要性や使い方などを啓蒙するためである。講習会では、施設からのリクエストなども集めることができた。

今まで形がなかったものが実際にでき、活動が進みだしたことがもっとも大きい成果だと同協会は見ている。この活動を続けていく必要も感じた。ただし、利用者にも施設にも経済的ゆとりはないためビジネスとしては成り立たない。厚生労働省などにも働きかけて、定期的に映像ソフトを提供できるシステムづくりに力を入れたいと話している。